

日刊 發行編輯人 川崎文治 本社下町番地（電話六三〇番） 印刷所 常盤毎日印刷所



刊夕日四十二月二十

定一部金貳錢 廣五號十二 休日曜大祭 一福島縣石城郡平岡長橋町三五 常盤毎日印刷所 電話六三〇番

解散を断行せば
政界通人

一承前—
併し既に政策の上に於ても重大なる行詰りに陥り遂に緊縮政策の假面の下に政派の積極政策に追隨するの止むを得ざるに至れることは明かに政派の政策が公正なる輿論に合致せることを證するもの此の點よりしても現内閣は既に存続の意義を失ひたるものといはねばならぬ、故に假りに現内閣が此のまゝ議院に臨み解散を取てきたりとするも其

の結果は現内閣の倒潰は勿論憲政會までが潰滅の悲惨な目に逢ふであらうといふことは現下の情勢に照し寧ろ當然の推斷といつて差支へない、然らば現内閣倒潰後政権は何れに歸すべきかといふことに就ては一部には中間内閣説が行はれてゐるやうであるが政治上に民衆の勢力が伸暢し來れる普選時代に於て左様な非常識なこと許さるべきものではない、政権は政友會の上に來る可きが當然でなければならぬ殊に政友會の積極政策は時局匡救上最も適切なものであるとは現内閣すら之を裏書せるほど且現

内閣の存在は一國風教の上よりしても到底許し難き所である（をほり）

マルトモの 新年あはがき
マルトモの クリスマスカード
それはごんに美しく奥ゆかしいか—さ目御覽を願ひます。
た—の紙片に過ぎませんが皆様の御交際をうるほす力は實に絶大です。

新年あはがき
文字ハガキ
カレンダー
カレン、トランプ
常用日記
懐中日記
マル柴田書店
平町四丁目電二三三四

外科
外科一般
耳鼻咽喉科
男性病科
女性病科
×光線科

赤心堂病院
田町 電話四七五番

加藤營業所
白銀町 電話三三三番

神戸海上運送保險株式會社
東洋海上火災保險株式會社
共保生命保險株式會社

貸家部案内
柳町 勤人向 八、五〇〇
五丁目 同 四、五〇〇
白銀町 同 一、四〇〇
内郷村小島 同 一、〇〇〇
賃地部案内
平町舊城跡 本丸、二ノ丸
同大切町、同八幡小路、同
柳町、内郷村緩停車場附近
四倉町小學校附近

廿四日替り映畫
不知火 終篇
尾上紋十郎、千草香子、小島陽三大主演
不知火の正体は果して何者か？……… 櫛司か？……… 又誰か？……… 櫛司か？……… 又懸賞發表本日午後九時

安中草三郎 七卷
明石緑郎、松本田三郎、努力篇

三千石 六卷
武井龍三、岩城秀哉、奈良澤一誠、大競演

蠻骨漢 後六卷
東郷久義、杉狂児、瀧澤憲金、金子種子主演

有聲座

内科。外科。婦人科。
小兒科。花柳病科。

磐城病院
平町田町本通り
入院隨時（電話二一四番）

買イ好イ店
良品ヲ安ク賣ル

クースーリ

関内藥舖
藥劑師 関内栄助
電話四〇番

年末年始の贈答には
アルミニウム食器を
一丁目（電話五百六十番）
關原商店

四丁目 鶴屋商店ノ
七五三ノ御仕度物ト婦人シヨールノ
大陳列會ガ有リマス

子供マント 子供洋服
子供オーバー 子供帽子
婦人シヨール 色 貳圓ヨリ
店內ニ種々陳列シテ有リマスカラ是非御覽下サイ

四丁目 ツルヤ
電話百四十番

正札堂
の製品を召せ給
（目下格安品豊
富に取揃へ申候

看護婦派出
の求めに應ず

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

東一北の
花澤の
あん餅

鐵道省御用舖
花澤の良司商店
前駅平

和久井屋
漆器店
一丁目（電話四〇五番）

特賣出
家庭道具種々取
揃へお持ちして
居ります
ぜひお越し下さい
景品呈上
御祝のひき物には
弊店の漆器をお使
へ下さい

美衣表具
玉成堂
平町二丁目
平銀行裏川岸通り

十月十日診療開始

院長 醫學博士 菊地泰助
副院長 醫學博士 松野松治
千葉醫學士 松野松治

外科 皮膚泌尿科
部長醫學士 野田宏
顧問醫學博士 松永琢磨

衛生試驗所（理化學的検査）
主任醫學博士 菊地泰助
技師 和田宇市

藥劑師 吉本孝平
病院主事 賀澤忠治

産婦人科 耳鼻咽喉科は追て開始

平町磐城共濟病院
電話六四一四番
診療時間 午前九時より午後二時迄
急患は此限りにあらず

歲暮年始
御贈答用 **大賣出し**
十二月二十日より廿六日迄
特價品

- 一 錦紗小紋 金十五圓
- 一 高貴織 金六圓
- 一 一節糸織 金五圓五十錢
- 一 一節糸織 金五圓五十錢
- 一 御婚禮納物一式豊富取揃

申候

◇ 木綿縮瓦斯縮
見切品反物山積
着尺モスリン

金三圓八十錢
實用絹天足袋 廿五錢
白キヤラコ 廿錢

三井吳服店
平町電話三十八番

御浮腫を増し 御疲勞加せらる

聖上陛下の御容態

日 時 御体温 御脈 御呼吸
 廿三日午後十二時 三八、三 一二〇 三三
 廿四日午前六時 三八、四 一二四 三三
 同日午前八時 三八、六 一二四 三三
 御下肢の御浮腫は漸次御増加の模様にて御疲勞また加せられ昨夜九時左記御滋養料を奏上す(本日宮内省發表)

御粥十立方センチメートル、牛乳二百立方センチメートル、卵黄一個

平局の賀状受付は

昨年よりも九割減

臨時雇も解約しやうと
あきれた開散さ

十五日から開始した平局の年賀郵便取扱ひは二十二日まで受取数四千五百廿六通で前年の同日までの四萬五千三百八十九通に比して九割の減少を示してゐるがこれは聖上陛下御不例に涉らせらるるので謹慎の意を表してゐる

結果か

と見られてゐる、平局では不景氣故賀状一本で廻禮を省くだらうとの豫想から年賀状増加を豫測し二十餘名臨時雇を廿五日から使ふ事に契約したのであつたが全く豫想は裏切られ非常と變りないありさまに局では頭を下げて臨時雇に契約した

學生を

と頭痛鉢巻の態である

大ハラ式執行

子鉄倉神社で

平町縣社子鉄倉稻荷神社にては例年の如く卅一日午前八時より午後六時迄大祓式執行する由

平と郡山間

電話が便利に

郡山、平間の電話は溪谷を迂迴せる一回線なので電話困難を極め平町から郡山の呼出時間は平均普通報二時間半至急報一時間を要し殊に仙台、新潟、白河方面で中繼の多き時は四時間以上もかゝる有様なので仙台遞信局では今夏來從來の迂回電柱を直線にし且一回線の増設工事中のところこの程

機敏な商人は

ラヂオで相場を

總べてに便宜と

漸く竣工といよいよ一月一日午前零時から開通するようになったなほ平郡山、福島間の一回線増設工事も着工中である

アンテナが續々張られる月のうちであらうといはれてゐる

年瀬を越せない……

氣の毒な窮民 平町に九家族

平人事相談所では既記の如く先頃から平町内の極貧者を各々受持調査に命じて調査中であつたがこの程漸く大体調査を終了した、これに依ると全くこの年の瀬を糯米一升買ふとも出来ない窮民は約九家族でこれ等の窮民に對しては世の同情によつて集まつたお金、衣類糯米、肴、その他相談所からの金一封を贈つて慰問し世の人々同様に温かいお正月を迎へさせる筈である



柚子卷大根漬
+ 欄庭家 +

上等のものとは言はれない、大概一寸五分位の高さをよこしたる鉢は昔からまご鉢といふ深い鉢が申ひられたものであるが、これは鉢の土が乾燥しないやうにするためである、この點において今用ゐられる瀬戸鉢は最も適當したものである、花が咲いたらなるべく

午前中 は外に出して日光に當て室内には午後から入れるがよろしいのである、なせかといふと日蔭において開花はするが日光に當ると開花の具合が大へんよいからである、又水を與へる時に花に水を注が

勝手に織つて賣る

夫れはイケヌと罰金

石城郡大野村字八莖寺住職教須妻磐城すま(九)は去る九月無届で絹織物二反價格十四圓を製織販賣した同郡神谷村鎌田啓藏妻半谷いし(四)は同様九月から本月初旬までの間に絹織物四反價格三十一圓を製織し脱税した廉により平稅務署で取調べの上織物消費稅法違反として廿三日より一週間に罰金に相當する廿圓を納付せねば告發すると廿三日通告を發した

橋本教諭逝去

平商

新春福草

永保く 法すた

福草の芽を求めは成るべく太つた芽を求めがよろしい、それは太つた芽の草程莖が短くて丈夫な花を開くからである、一体福草の莖が伸びてから咲くのは開花期を失したものであつて

壺網取締を

縣廳へ陳情

本縣濱三郡の漁業組合では二十三日石城海岸に於けるつば網の取締について縣に陳情書を提出したが右つば網漁業は比較的手数がかゝらぬ上に相當漁額があるの次第に盛んになり海岸一帯に殆ど隙間もなく敷設せらるゝに至つたため其の結果として本縣に於ける最も重要な鯉釣の魚であるいわしを取盡し鯉漁業に非常に脅威を受けると云ふのである

兎の耳

列車顛覆を免る 岩手縣和賀郡東晴山小學校生徒瀨川一男、大菅三太郎が學校より歸途猿ヶ石厚樂の縣道に差しかゝると鐵道線路に大石崩壊しあるを發見直に取除かんとせしむ力及ばず如何せんせし折柄列車が進行して來たので必死となつて兩手を上げて急信號をして列車を止めた

なものを選びまして極薄く木口打ちにして平たい器に並べて少量の鹽をまき一時間位の後に水洗ひして水氣を切つておきます、みりんは煮立て、そこへ酢を加へて尚煮たつたら火より下し他の器に移して冷してユズは皮をせんに切り蕃椒は輪切りにして種を洗ひ去り酢の中に浸して置きます。次にユズを芯にして大根を昆布巻の様に巻いて中央を切り昆布で縛ります。漬込み方は全部準備が出来たら煮酢の中に漬けて二日後に食膳に供することが出来ますこれは香りのよい漬切であらうでございます

十二、三圓位、信州白も略同じ位の値段秩父紅は一圓以上二圓位まで二段咲は最も安値で一芽五十錢以上一圓位の程度である。

湯本役場新築

工費一萬五千圓

石城郡湯本町役場は去る二日焼失したので驛前の磐城鑛業事務所を臨時借受け執務中で二十一日高木町長は炭礦會社幹部と協議の結果明年一杯役場を新築するまで無償で借受くることに契約したが役場は別に敷地を選定工費一萬五千圓内外で新築する豫定である

ぬやうにするも花を保たせるために

必要な

種類を左に擧げると先づ秩父紅、これは黄に紅を帯びた花で直径二寸三分位の花を開く太田白は純白の花で福草草中の最上等である大きさは二寸五分位信州白これは純白に底だけ薄黄を交えた花で矢張り二寸五分位の直径の花を開く二段咲といふのは

最大輪

で三寸位であるがこれは一度花が散つたら更に伸びて開花することの外にすべてを合せると二十種類以上にも及び値段は最上等の太田白が八圓以上